

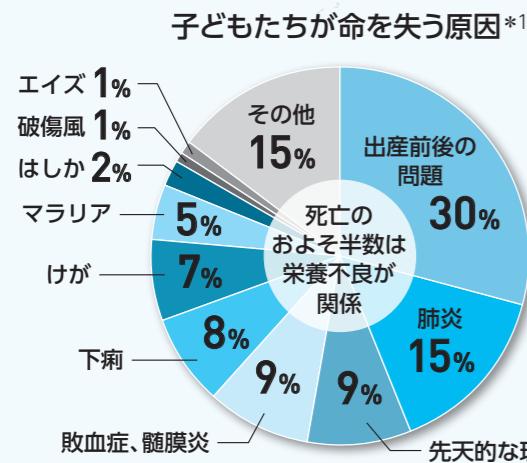
世界の子どもたちは、いま

生まれた国や地域によって、さまざまな危機や困難に直面している子どもたちがいます。

数字で見る世界の子どもたち



5歳をむかえる前に命を失う子どもは年間
530万人^{*1}



予防や治療ができる原因で多くの子どもたちが命をうしなっていることがわかります。

世界の5歳未満児の21.9%



1億4,900万人の5歳未満の子どもが、栄養が足りず発育が阻害されている^{*2}



児童労働を強いられている5~17歳の子どもは、世界で
1億5,200万人^{*3}



バングラデシュ。14歳のナシルくんは人力車の運転手。「ぼくの家族はとても貧しいので、家族を養うために働かないといけない」(2019年12月撮影)
© UNICEF/UNI252566/Modola

*1 Levels and Trends in Child Mortality 2019

*2 UNICEF-WHO-The World Bank Joint Child Malnutrition Estimates-2019 edition

*3 ILO, Global Estimates of Child Labour - RESULTS AND TRENDS, 2012-2016

*4 UNESCO, New Methodology Shows 258 Million Children, Adolescents and Youth Are Out of School (2019)

*5 WHO/UNICEF JMP (2019), Progress on household drinking water, sanitation and hygiene 2000-2017. Special focus on inequalities

ヨーロッパにおける難民・移民危機

2019年1月~9月上旬の間で、5万7,000人の難民・移民がヨーロッパに到着し、その4人にひとりが子ども。難民・移民の子どもたち、特に単独で移動をしている女の子・男の子は、性的暴力を含む虐待や搾取にあうリスクが高い。

ベネズエラ危機

ベネズエラでは、前例のないほど社会経済・政治危機により、国内では約700万人が人道支援を必要としている。2020年には、ベネズエラをはじめラテンアメリカ・カリブ海地域において、子ども190万人を含む650万人が支援を必要とすると見込まれている。



コロンビア。ベネズエラとの国境近くの町のサッカー場。無償で提供される昼食に並ぶベネズエラの移民たち。(2019年4月撮影)
© UNICEF/UN0310030/Arcos

危機下の子どもたち

ウクライナ

ウクライナ東部では、子ども43万人を含む340万人の人々が、5年続く紛争の矢面に立たされ、心と身体の健康を蝕む直接的な脅威と、基本的なサービスへのアクセスの制限に苦しんでいる。



武力紛争が始まり、多くの人が町を去りました。オレクシさんのお父さんは再開しましたが、生徒は4人しかいません。砲撃が始まると、学校は避難所になります。(2019年5月撮影)
© UNICEF/UN0312572/Filippov

シリアと周辺国

紛争が8年続く中、事態の深刻さ、複雑さは増し、支援の規模は依然として広範囲に及んでいる。シリアの人口の半数以上にあたる約1,100万人が人道支援を必要としている。トルコやレバノン、ヨルダン、イラク、エジプトなどの周辺国では、子ども250万人以上を含む560万人が難民として登録されている。



トラックの荷台に乗り、シリア南部で激化した紛争から逃れるために多くの家族が移動しています。(2020年1月撮影)
© UNICEF/UNI286348/Abdoull

アフガニスタン

アフガニスタンでは、紛争、自然災害、貧困により、支援の必要性が高まっている。2020年、940万人(そのうち54%が子ども)が人道支援と保護を必要とするところがみられている。

朝鮮民主主義人民共和国

北朝鮮の人道状況は、慢性的な食料不足、命を守る基本的なサービスへのアクセスの欠如、もっとも弱い立場に置かれた人々への深刻な影響が特徴としてみられる。人口の3分の1以上が、安全な飲み水を利用できない。

ロヒンギヤ難民危機 (バングラデシュ、ミャンマー)

ミャンマーから逃れ、バングラデシュのコックスバザールで受け入れられたロヒンギヤ難民の数は、2019年9月までに91万人以上にのぼり、そのうち73万人は2年以上この地での生活を余儀なくされている。ミャンマーでは、ロヒンギヤの子どもや家族は非常に弱い立場に置かれ、約90万5,000人が保護を必要としている。



プロサッカー選手で日本ユニセフ協会大使の長谷部誠さん。60万人ものロヒンギヤの人々が暮らす世界最大の難民キャンプを訪問しました。(2019年6月撮影)
© UNICEF/UN0319108/Chakma
© 卷末DVD「長谷部誠大使 ロヒンギヤ難民キャンプ訪問」

エボラ対応(コンゴ民主共和国、ブルンジ、ルワンダ、南スーダン、ウガンダ)

コンゴ民主共和国でのエボラ出血熱の発生は、900人以上の子どもを含む3,000人の症例が確認されており、その規模はこれまでで2番目に大きく、紛争地帯におけるものではもっとも大きい。この大流行が、ブルンジ、ルワンダ、南スーダン、ウガンダを含む近隣諸国に波及するリスクが極めて高まっている。

中央サヘル地域(ブルキナファソ、マリ、ニジェール)

中央サヘル地域における不安定な状況と暴力の蔓延によって、人々が自宅を追われる強制移住と人道危機が前例のないほど深刻になっている。5歳未満の子どもたち72万1,000人が重度の急性栄養不良のリスクにさらされている。

暴力によって閉校となった学校はこの3年間で6倍に増加。3,000校以上が閉校し、子ども61万人と教師1万5,000人が影響を受けている。

ニジェールの保健センターで診察を受ける女の子。上腕の周囲は10cmしかなく、重度の急性栄養不良と診断されました。
© UNICEF/UN0317914/Frank Dejongh



イエメン

紛争勃発から5年が経過する中、イエメンにおける人道危機は世界最大の緊急事態であり、2,400万人以上が人道支援を必要としている。約360万人が国内避難を余儀なくされ、5歳未満の子ども36万8,000人以上が重度の急性栄養不良に苦しんでいる。



空爆によって破壊された家の前に座るイエメンの子どもたち。(2019年7月撮影)
© UNICEF/UNI220712/Romenzi

注:この地図は国境を正確にあらわしたものではありません。また、国や領土・国境の法的地位についてのユニセフの立場を示すものではありません。

出典: Humanitarian Action for Children 2020(Overview), UNICEF

世界の子どもの現状が知りたい